



■被災地出張授業……2013年 12月10日

日本の農業・酪農・乳業のこれから 皆さんの将来に期待すること

講師：古川 紘一 2013年度 幹事／地方分権・道州制委員会副委員長(森永乳業 相談役)

2013年12月10日、IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる被災地出張授業が行われた。今回は、古川紘一幹事が岩手県立大船渡東高等学校を訪れ、3年生181名を対象に、学生たちが将来に向けてすべきこと、目標実現のために必要なことについて語った。



農家は専業農家が減少し 酪農は大規模集約化が進んでいる

日本の食糧自給率は39%しかありません。これは何を意味しているかというと、残りの約60%を海外から輸入しているということです。金額にすると約8兆円もの食糧を輸入しているのに対して、輸出は4,500億円しかありません。そこで、これからの農業は、海外への輸出を促進することで発展すると考えられています。そのためには、農家を集約化し、大規模化することが必要と言われていています。しかし、日本の農家235万戸のうち専業農家は42万戸しかなく、さらに農業の担い手が年々減少していることが大きな課題となっています。

一方、酪農の分野では、集約化が進み、一戸当たりの飼育頭数が増えています。北海道ではヨーロッパ並みの規



模の頭数を抱える大規模酪農が進んでおり、喜ばしい状況と言えます。

将来の目標を明確に 自ら決断し、責任を負う大切さ

私は、9年間、社長として入社内定者の全員と話をしてきました。その中の外国人留学生には、「日本の学生をどう思いますか？」と必ず聞いていました。

すると彼らは決まって「日本の学生はあまり勉強しないですね」と言うのです。なぜ、そのような印象を持つのか？ 私は、日本の学生たちが、彼らより目標意識が弱いからではないかと思うのです。

外国人留学生は、将来の目標をしっかりと持っており、4カ国語を話せる人もいました。例えば「入社したら営業の仕事頑張る、後にマーケティングを学び、将来は東アジアを舞台に仕事をしたい」といった目標をはっきりと答えます。自分のやりたいことが明確で、そのために努力している様子がよく分かりました。

何のために勉強するのか、何を目標とするのかをはっきりとさせることは、非常に重要なことです。

そして、その目標は、自分で考え、自分で設定することです。自分で決めたことは、自分が責任を負わなくてはなりません。しかし、人に決めてもら

うと、責任意識が薄れます。皆さんにも、自分で目標を立て、決断し、責任を持って行動できる自立した人間になってもらいたいと思います。

社会人としての報酬は 「給料」と「経験」の二つ

職業を選択する上で心掛けてほしいことは、選択の幅を広く取ることです。人が目を向けない仕事や人のやりたがらない仕事も、進んでやりましょう。経済同友会でも、そうした視点で事業を起こし、成功した人がたくさんいます。皆さんの前には、可能性が山のようにありますから、ぜひチャンスをつかんでください。

社会人になると、二つの報酬が得られるようになります。一つはまず、お給料。金銭的な報酬はもちろん必要です。しかしそれ以上に重要なのが、経験という報酬です。今回の震災で、自社の東北支店長は、いくつもの困難な状況に直面し、大変な苦勞を積み重ねました。しかし、それらの経験で彼は大きく成長しました。今では将来、会社で重要なポジションを担えるほどの能力を持つ人材になりました。

これから皆さんも社会に出ると、さまざまな困難に直面すると思いますが、困難が自分を育ててくれるのだと考え、大きな経験をたくさん積んでください。

生徒との質疑応答

Q 古川さんはなぜ、森永乳業に入社しようと思ったのですか？

A 私の学生時代のアルバイト先が、森永乳業の牛乳工場でした。当時は、牛乳瓶の空き瓶にたばこの吸い殻などいろいろなゴミが入られてしまい、それをかき出すという仕事をしていました。単純できつい仕事でしたが、世のため人のためになる仕事を続けていこうと決意したのを覚えています。今でも瓶牛乳を飲むときは必ずきれいに水洗いをして返すようにしています。



Q 入社・進学前にしておいた方がよいことは何ですか？

A 私が9年社長をしていて足りなかったと気付いたのが語学力です。学生の時にもう少し勉強をして、語学力を身に付けていれば良かったと後悔しています。時間がないというのは言い訳にすぎません。これからの世の中、働くにせよ進学するにせよ、英語力はどうしても必要です。海外とコミュニケーションを取るために、まずは英語習得に努力し、それ以外の勉強

もその都度必要なものを身に付けていきましょう。

Q 一番好きな森永乳業製品は何ですか？

A 業務用の部長だったころに手掛けた業務用商品は今でも愛着があります。もう一つは、自ら提案して発売まで一生懸命に努力した「まきばの空」という牛乳です。今までにないタイプの商品でしたが、これも思い入れがあります。努力したものには、愛情が湧きます。

生徒の感想

●森永乳業のマミーは、私が風邪をひいたときによく父が買ってくれた飲み物でした。他の飲み物とは違う味で、マミーでないと駄目なのです。その父もあの震災で亡くなってしまいましたが、今でもマミーが大好きです。4月からは社会人となりますが、今日話を聞き、会社に少しでも貢献できるよう頑張っていきたいと思いました。

●今日の講演を聴いて、自分が世界で活躍するには、どうすべきか深く考える良い機会になりました。今の自分にはまだまだ経験が必要です。ボランティア活動や地域のひととの交流活動、また機会があれば世界の人々と交流できるよう、自分から積極的に活動したいです。また、現在学んでいる学科だけでなく、他の学科も意欲を持って学んでいきたいです。

●一番印象に残っているのは、日本人が外国からの留学生にどう思われているのか、ということです。同じ国の中で過ごしていると「これが普通だ」と感じ、それ以上は考えずに過ごしてきましたが、外国の方々からの目線で見ると、「日本人は勉強しない」と感じられるのでしょうか。このままでは日本という国自体が世界から取り残されるのだと、あらためて実感しました。この状況を抜け

出すには、私たちの力が必ず必要になってくると思います。もうすぐ社会の一員となる私たち一人ひとりが、今、日本で起きていることの重大さを考え、未来のためにどうしたらよいかを十分考えていく必要があるのだなと思いました。

●私は春から就職しますが、講演を聴いてまだまだ自分は未熟だなと感じました。私は決断力があまりなく、自分一人で物事を考えると、正しいかどうか、不安になってしまうことがあります。社会人として、判断力・決断力をしっかりと身に付けたいと思いました。

●私にも目標があります。古川さんの話を聞くと、どんどんやれる気がしてきました。目標達成のためにできる限りのことを精いっぱいして、実現させたいです。

●印象に残ったのは「英語力を身に付ける」ということです。私が内定をいただいた会社も海外展開しています。中学のころから英語は大好きですが、自分の言葉で話すことや作文がまだ少し苦手です。でも、これからも「英語で話す」練習を続けようと思いました。

●今日話を聞いて、仕事のことを考えるということは、日本のことを考えることでもあるのだと気が付きました。